

中公みはら芸備かわら版



平成26年度新規主催講座のご紹介



中央公民館では平成26年度の主催連続講座を22教室開講いたします。今月号の広報みはらにも掲載されますが、このたび、新たに主催講座の仲間入りをする連続8講座を紹介いたします。きっと皆様のニーズにあった講座が見つかると思います。人生がより豊かになること間違いなしです。そこで、私の大好きな詩人“サムエル・ウルマンの“青春”という詩の一節を紹介します。“青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方をいう”と、詠っています。皆さん！素敵な講座を見つけて、いつまでも“青春”しましょう！！

基本形から始める
フラワーアレンジメント



手縫いで楽しむ
古布実用小物



バレトンで
シェイプアップ



季節のスイーツ



アート書道



体幹鍛えて
元気な体づくり



手ごねのパンを作ろう



親子で英語あそび



体験講座紹介



新しい風・生涯学習



五感ヒーリング講座

(音・色・香・味・触をリフレッシュ)

日程 3月12日(水)
場所 和室(3F)
時間 10:00~11:30
定員 15人
対象 大人
参加費 1,100円
申込み 3月10日(月)まで

歌声の集い(歌って笑ってリフレッシュ)

日程 3月24日(月)
場所 中講堂(2F)
時間 13:30~15:30
定員 100人
対象 大人
参加費 100円
申込み 3月19日(水)まで



中央公民館学習発表会のご案内 3月8日(土)・9日(日)

2月の広報みはらで募集済みの3月講座の紹介

- ① 家族と食べるひな祭り寿司を作ろう
- ② マイビデオ発表とDVDの作り方を学ぶ



中央公民館で活動されている講座サークル活動の成果の発表の場です。何か学習をしたい！趣味を持ちたい！健康でいたい！……など。何かしたいと思っておられたらまずは会場で体験してみましよう！！

両日とも、うどんとごはんセットの販売を11時~14時まで行います。
¥350です。

場所：中央公民館・リージョンプラザ展示ホール

作品展示の部

3月8日(土)9:00~17:00
3月9日(日)9:00~16:00

陶芸・絵画・書道・写真・木彫り・パッチワーク・フラワーアレンジメント・短歌・レザークラフト・押し花・編み物……など多くの作品が展示されます。

舞台発表の部

3月9日(日)9:25~

合唱・ギター・フラダンス・英会話……など。10団体の出演があります。

お茶席 8日(土)
11時~14時
¥200円です。

平成26年4月の体験講座



- ① 介護現場で役立つアロマ(殺菌・防臭スプレー)
- ② 春の寄せ植えを楽しもう
- ③ 家庭で作れるやさしい料理



三原市中央公民館
三原市円一町2丁目3番1号

講座の申込先 中央公民館生涯学習課



連載企画

「海・山・空」夢ひびくまち

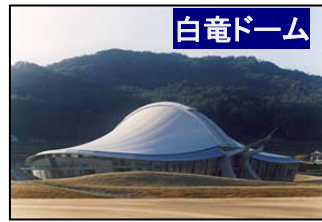
大和を訪ねて I

大きな和のまち 大和町

昭和三十年(1955)三月三十一日、世羅郡神田村、豊田郡大草村、樫梨村、豊田村和木、箱川地区が仲良く大きく和するという「大和の精神」を持って発展するようにと、大原博夫知事(河内町出身)が名づけられ大和町が誕生しました。一年後に、郡境変更により豊田郡から賀茂郡になりました。



道の駅よがんす白竜



白竜ドーム

街の歴史は古く、北部の萩原地域及び南部の椋梨川沿いには、弥生時代前期頃に稲作農業が伝わって人々が定着しました。多くの遺跡や古墳群が確認されていますが、中世には米作農業を中心として荘園が発展し、中世には萩原郷(篠蔵宗・福田)は大田荘として、徳良郷は尾道浄土寺領、椋梨川流域一帯は、小早川氏によって開発されました。弘治元年(15

5)には毛利氏、慶長六年(1601)には福島氏の所領となり、元和五年(1619)以降幕末までは、浅野家歴代が統治していました。



黒谷古墳



神田大池

芦田川の源流は大和町 椋梨ダムの愛称「白竜湖」

福山市に注ぐ芦田川の最上流は、標高五百七十mの神田村字蔵宗鳥が池の頭のバンゾウの木の下に発する」とあります。延長八十六kmで四市一町に渡る、一級河川です。

用水の確保のため、町内にも七〇〇余りのため池があります。ため池は地形によって谷池・血池に大別されますが、大和町の場合はほとんどが谷池です。神田大池・野田池・五藤田池等が代表的なものです。池は先人のたゆまぬ努力によって構築され、今日まで大きな恩恵を与えていることを忘れることはできません。



椋梨ダム

昭和 44 年(1966) 竣工 椋梨ダム

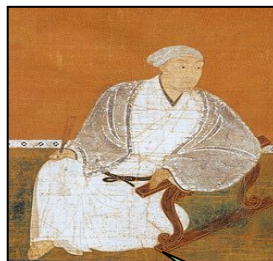


最初の一滴

芦田川の源流

黒田官兵衛と小早川隆景

大河ドラマの「軍師 官兵衛」の時代は戦国時代で、信長・秀吉・家康が有名ですが、この時代は新高山城・三原城を築いた小早川隆景も武将として活躍していた時代です。かつては敵であった官兵衛と幾多の戦場を駆け抜ける中でお互いの器量を認め合った仲で、隆景の逝去に接した官兵衛は、隆景を「日本に賢人がいなくなつた」と嘆いたと伝えられています。



歴史群像の官兵衛



ドラマの官兵衛

大和町には 備後・相良城と安芸・椋梨城が!

大和町には、備後と安芸の城がありました。戦国時代には備後国は小早川氏が、安芸国は毛利氏が統括していたからです。下徳良にある相良城は備後の国で、神田公民館の東側に高さ十メートルの独立丘陵で小さな城跡です。樫梨には、安芸国の椋梨城があり高さ十メートルの単郭の城で丘陵に築かれています。現在には公園として整備されています。三原久井・大和には、境界碑があり、備後と安芸の国が存在していたことが伺えます。

郷土民俗 民具

家庭内にあった民具

ここから息を吹く!



火吹竹



竹製品館 資料

火吹竹(ひふきだけ)……ガスや電気での炊事をしている現代では考えられないものであるが、火をおこすためにはなくてはならないものとして火吹竹がありました。火吹竹は一本の竹の節をかけて切り、底に小さな穴を開けただけの簡単なものでありました。火をおこす時に風を吹き込むことによって火力を強める道具でした。テレビの時代劇・明治・大正・昭和の時代の番組を見ると、台所・風呂などで火をおこす時に使用されています。

アウトドアなどで、炭等で火をおこすときラップの芯で吹いてみられては?うちわ等であおぐより早く点火しますよ!

広島民俗学会理事 樺 博自先生の「みはらみてある記」と歴史民俗資料館の資料・大和町誌等を参考文献に掲載しています。



備後・相良城



安芸・椋梨城